

登録コード	SGH07900	開講年度	2026				
授業題目	博物館教育論					担当教員	福島 正樹 他
英文授業名	Museum Educational Theory					副担当	田村 徳至
単位数	2	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学年	1～3年
講義室	理学部第1講義室			授業形態	講義	遠隔授業科目	
						備考	読替科目は履修案内を確認すること
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				⇔	【授業の達成目標】	
(2)授業で学べる「テーマ」	芸術文化、環境共生						
(3)全学横断特別教育プログラム	ローカル・イノベーター養成コース						
(4)授業の概要	博物館における教育普及活動は、展示デザインやワークショップ、地域連携や博学連携、またボランティアとの協働など多岐にわたっている。この授業では、博物館教育の理論、現在の動向などについての講義や、様々な教育プログラムに関する講義や体験を通して、博物館教育の基礎を学ぶ。担当教員が学芸員の実務経験を活かして講義を行います。						
(5)授業のキーワード	博物館、教育方法						
(6)授業計画	前期集中、後期（前半8回）月5で開講します。 1 博物館教育とは（田村） 2 博物館教育の歴史と意義（田村） 3 博物館の展示と教育（田村） 4 展示と利用者をつなぐ補助教材（田村） 5 人文科学系博物館のプログラム（田村） 6 自然科学系博物館のプログラム（田村） 7 学校・地域との連携（田村） 以上、田村の授業は夏季休業中（8月中にeAlpsに公開）にオンラインで実施予定。 公開した際はeAlpsと各自へのメールで連絡する。 8 博物館教育と利用者主体の博物館活動（福島） 9 教育プログラムとその評価（福島） 10 博物館資源の蓄積と公開（福島） 11 ボランティア（福島） 12 博物館、公文書館、図書館（MLA）（福島） 13 研究・展示・教育（福島） 14 学芸員の役割、エデュケーター（福島） 15 まとめ（福島）、授業アンケート 以上、福島の授業は後期に授業日を指定して実施予定。						
(7)成績評価の方法	通常授業の出席と小テスト、レポート等により評価を行う。						
(8)成績評価の基準	通常講義への出席や小テストの結果も考慮して評価する。レポートについての評価基準は次の通り。 (1) 問題の設定が適切であり、(2) その問題の背景を説明できており、(3) その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(4) それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(5) その上で自分の見解を提示できており、かつ、教員を感心させるレベルにあれば「卓越している」。 (1) から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「水準にある」。評価は100点満点のうち、レポート・小テストで50点、出欠で50点。田村と福島の得点を合計して評価する。						
(9)事前事後学習の内容	大学における講義は、受講者の事前事後の学習を前提として行われる。教科書として指示された文献、講義の中で指示された参考文献について、事前事後学習として参照すること。						
(10)履修上の注意	この授業は、前期と後期に分けて実施する。前期は田村徳至が7コマ分を担当し、夏季休業中に集中講義（オンデマンド）を実施する。後期は福島正樹が担当し、後期開始の最初の授業から8コマ分を毎週の講義として実施する。前期・後期両方を履修することで単位を取得できることに注意すること。なお、夏季集中講義の詳細は、前期開始後、e-Alpsにて周知する。						
(11)質問,相談への対応	講義終了後に直接質問してください。学務へのメモも可（次の講義で回答します）また、メールでの質問も可。アドレスは、fukusima@shinshu-u.ac.jp						
【教科書】	基本的に講義の中で紹介する（プリント配布など）						
【参考書】	・水藤真『博物館学を学ぶ―入門からプロフェッショナルへ』（山川出版社 2007年） ・真家 and 生ほか編著『大学生のための博物館学芸員入門』（技報堂出版 2014年） ・君塚仁彦・名見耶明『現代に生きる博物館』（有斐閣ブックス 2012年）						